

認定特定非営利活動法人

だいじょうぶ

2025 年度 事業報告

(2026 年 第 21 回総会資料)

日時：2026 年 5 月 28 日 (木)

13 : 00 ~ 15 : 00

場所：子どもと親の相談室 和室

総 会 次 第

- 1、開 会
- 2、理事長あいさつ
- 3、議長選出
- 4、定足数の確認
- 5、書記及び議事録署名人の選出
- 6、審議事項

第 1 号議案	2025 年度事業報告について	P. 3~15
第 2 号議案	2025 年度決算報告及び監査報告について	P.16~22
第 3 号議案	2026 年度事業計画書 (案) について	P.23~27
第 4 号議案	2026 年度予算書 (案) について	P.28~30
第 5 号議案	役員給与の上限について	P.31

- 7、議長解任
- 8、その他
- 9、閉会

全体の報告

支援の必要な子どもの居場所、第二種福祉事業に

日本財団が進める「子ども第三の居場所」が全国に約 250 拠点にまで増え、助成終了後に市が使える補助金も増えています。そんな中、私たちが運営する子どもの居場所が第二種福祉事業（児童育成支援拠点事業）として市から委託を受けるようになりました。私たちが目指した、支援の必要な子どもの居場所が一般化したと言えると思います。消費税も非課税となり、受託団体の負担も軽減されます。

また、居場所が一般化する中で、日光市にも他団体が日本財団の助成を受けて子ども第三の居場所を開設することがわかりました。地域に子どもの居場所が増えることは、とても喜ばしいことだと思っています。

子どもの居場所の強みづくり

だいじょうぶの居場所の強みを持つ必要があると、職員のスキルアップにも努めました。よりよい子ども対応を目指して一般社団法人 Roots4（那須塩原市）の協力を得て、定期的に職員研修を実施しました。講師（作業療法士）を派遣していただき、子どもの発達について、子どもの言動についての新たな視点、対応のスキルを学んでいます。

また、児童育成支援拠点として、子どもの自立、社会性やレジリエンス獲得を目指した、「心」を育てる関わりを求められています。そのためにも、子ども対応のスキルアップが求められています。

日本財団「子ども第三の居場所」助成終了、「あそびのにわ」行政移管に向けて

「あそびのにわ」への日本財団からの助成が終了しました。市からの委託費に加え、寄付を一部充当することで、事業をこれまで通り継続していく予定です。行政移管の準備として、来年度から職員の配置転換や非常勤職員の正職員登用等行えるよう調整を進めました。

子どもの貧困、物価高騰

「子どもの11.5%（9人に1人、2022年統計）」・・・と、数字だけを見れば日本の子どもの貧困率は下がっているようにも見えます。しかし、物価の高騰に昇給が追いついておらず、実質賃金が下がっている中での数字です。ライフラインが止まった。家賃が払えない。お米が買えない、などなど。現場から見える子育て家庭の暮らし向きは厳しいままです。食材配布会の受け取り希望者数も高止まりしたままです。子どもの貧困は、依然として日本の深刻な課題です。

「だいじょうぶ応援団」募集開始

寄付等支援性の財源が減少する中、企業にも支援を呼びかけようと、企業協賛募集の仕組み「だいじょうぶ応援団」を、立ち上げました。応援団第1号会員の明治安田生命保険相互会社様の協力を得て、地元企業に働きかけ、丸彦製菓株式会社様がだいじょうぶ応援団になってくださいました。これまで物品提供やご寄付をいただくなど、お付き合いのあった企業を中心に、企業協賛を呼びかけていく予定です。

「日光市家庭児童相談室」※日光市と協働

「子どもと親の相談室」※だいじょうぶ独自の相談室

事業内容

虐待や貧困、親の病気など、様々な理由で家で安心して過ごせない子どもとその家族に寄り添って、家庭環境を把握し、必要な支援を組み立てる司令塔を担っています。

日光市の家庭児童相談室に、だいじょうぶからアドバイザー1人と相談員2人が加わり、市と協働で相談対応にあたっています。また、子どもの年齢等の理由で市の家庭児童相談室の対象外となるケースなどに対応する独自の相談室「子どもと親の相談室」も運営しています。両方が同じ建物内にあるため、情報の共有、支援依頼、支援内容の調整・報告がスムーズにできています。

ケース情報が完全共有化され、対等に援助方針を話し合い、具体的な支援につなげられる、行政とNPOの協働のモデルになるような事例だと自負しています。

事業報告

<家庭児童相談室>

今年度は、日光市健康課の保健士さんとの連携が進み、未受診での飛び込み出産の特定妊婦ケースの受理が相次ぎ、おむつやミルクの支援依頼がありました。MY TREEとの関連では、虐待行動を辞めてほしい人ほどプログラム受講につながらず、相談対応に困難がありました。また、劣悪な住環境になってしまった家庭への支援(片付け)を見童相談所のケースワーカーと一緒に実施しました。

●実績(件数)

	相談受理 件数	うち新規受理		新規受理種別				うち要支援者	
		虐待	他	身体	ネグ	心理	性的	特定妊婦	要支援児童
2024年度	17,762	129	213	33	34	62	0	18	79
2025年度	16,849	142	238	34	59	47	2	22	119

<子どもと親の相談室>

平日時間外と土日祝日の相談件数は879件です。内訳は身体的虐待61件、性的虐待4件、心理的虐待35件、ネグレクト40件、その他の相談739件です。

また、困窮した子育て家庭を対象に、SOSに応じて食材や日用品、学用品、衣類等を随時提供した他、隔月で食材等配布会を実施しました。

(※実績詳細「その他の動き」参照)



実施日時	毎日 24 時間	従事者数	7 人	事業費の金額	12,404,767
実施場所	日光市家庭児童相談室、子どもと親の相談室、従事者宅、等				
受益者数	延相談件数:件 新規受理件数:件 新規受理児童虐待件数:件				

「ショートステイ事業」

事業内容

母親の入院や出産、不適切な養育などで、子どもが家庭で過ごすことが一時的に困難になった場合や、虐待を防ぐための母親の休息のため、お子さんを数日～1週間程度お泊まりで預かり、養育する事業です。

畠山理事長宅や地域の里親さんなど、里親の資格がある、家族に保育士がいるなど、一定の要件を満たした方(場所)に登録していただき、委託しています。また、職員と一緒に泊まり込むなどして子どもの居場所で受け入れる場合もあります。

事業報告

2025年度は、3ケース3件の預かりがありました。幼児兄弟のケースは、居場所利用で慣れているひだまりキッズに職員が泊まり込んで対応しました。他は、登録している里親宅にて預かりました。

5/12～5/19(8日間)

1人(12歳)

里親宅 保護者の疾病

6/3～6/9(7日間)

1人(17歳)

里親宅 本人希望、家庭養育上の理由

1/13～1/14(2日間)

2人(3歳、2歳)

ひだまり 家庭養育上の理由



実施日時	随時	従事者数	5人	事業費の金額	118,681
実施場所	里親宅、ひだまりキッズ				
受益者数	日光市内の保護が必要な子、延べ4人				

「講師派遣事業」、「食べて・遊んで・学んで育つ日光子ども応援隊」、等

事業内容

子ども虐待や子どもの貧困の課題を広く市民に伝え、子どもが大切にされる社会をつくるために、様々な事業を行っています。講師派遣や、研修会の実施、地域協働プロジェクトへの参画などです。

<子ども応援隊>

多様な主体による、子どもの貧困の課題解決に向けたプロジェクトです。地域の子どもたちが、生まれや環境によって自分を諦めることがないよう、その気になればチャレンジできる環境を整えるために、様々な事業を行っています。日光市の子どもの貧困の現状を「調べ」、「課題を見つけ」、「対策を練り」、「活動」しています。

参画主体：スマイル日光プロジェクト、S&S セミナー、NPO 法人和音、NPO 法人楽ッ子の会
キリフリ自然学校、個人有志、だいじょうぶ、等

事業報告（※講師派遣実績は「その他」のページに記載）

<子育て応援セミナー>

日光市主催の子育てセミナーに、畠山理事長を講師として派遣しています。今年度から、MY TREE 親プログラムのエッセンスを取り入れた、MY TREE 子育てプログラムに準じた形で、7 回連続講座として実施しています。

<子ども応援隊>

「朝カフェ」実施校：日光市立日光中学校、日光市立藤原中学校

これまで実施してきた日光中学校に加えて、今年度から学校からの要望により藤原中学校でも朝カフェを実施するようになりました。どちらも地域の方々がボランティアとして関わってくださっています。また、先生方とのコミュニケーションが増えることで、気になる子の個別支援の相談等もできるようになりました。県の教育委員会や文部科学省からも視察に来るなど、学校での朝の居場所に注目が集まっています。

今年度から、日光市の子ども食堂等を支える補助金をいただけるようになり、食材費の面では安定しました。

実施日時	随時	従事者数	6人+応援隊メンバー	事業費の金額	352,997 (子育て応援セミナー)
実施場所	講師派遣：県内外各所		子ども応援隊：市内各所		
受益者数	講師派遣：全国、多数		子ども応援隊：朝カフェ生徒約40人/教員約10人		

「MY TREE 母親・プログラム」、「MY TREE 父親・プログラム」

事業内容

「子ども虐待とは、これまで人として尊重されなかった痛みや悲しみを怒りの形で子どもに爆発させている行動です(森田ゆり プログラム開発者)」

このプログラムは、「怒り」の裏側にある痛みや悲しみ、心の傷に目を向け、回復を促すプログラムです。自分自身を大切にできるようになることで、子どもへの「怒り」の爆発が減っていきます。

2012年度から毎年実施、2026年度で15回目となります。プログラムの運営は、研修を積んだ専門スタッフが担当しています。

2022年度以降、これまでの母親プログラムに加えて、父親向けに再構成された「父親プログラム」を全国に先駆けて(大阪に次いで2か所目)実施しています。父親プログラムには、県内外から、子どもへの暴力に悩む父親の参加があります。

事業報告

今年度は、7人の母親、4人の父親にプログラムを実施しました。このうち2組がご夫婦での参加でした。この夫婦の様子を見ると、夫婦と一緒に(同時期に)学ぶことがとても効果的であることが感じられました。父親プログラムは、現在大阪、東京、栃木の3か所で実施、うち毎年実施できているのは大阪と栃木の2か所だけです。このプログラムが全国に広がり、多くの虐待に悩む父親が受講し、虐待行動が終止することを願っています。

<母親プログラム>

- ・日時:9/19~12/19(全13回講座)+個別インテイク面接、中間面接、終了時面接+3/13同窓会
- ・参加者数:7人
- ・参加者の声・得たものは仲間。この先つながることはなくとも、同じ悩みを持ち、解決しようと頑張る仲間がいると思えただけで、自分も先に進んで行ける。
 - ・他の人の話を聞いて、大変なのは自分だけじゃない、間違ったことをして後悔しているなら今からでも謝るのは遅くない、これからが大切、と気づかせてもらえた。

<父親プログラム>

- ・日時:9/6~12/13(全13回講座)+個別インテイク面接、中間面接、終了時面接+3/14同窓会
- ・参加者数:4人
- ・参加者の声・まずは自分自身をいたわり、褒め、大事にすることで、穏やかでいられる時間が増え、それが家族への良い影響にもなったと感じる。
 - ・自分の過去を見直すことで、前を向くきっかけになった。

実施日時	9/13~3/8	従事者数	5人	事業費の金額	1,482,158
実施場所	パーティとちぎ男女共同参画センター				
受益者数	子どもへの虐待に至ってしまった母親7人、父親4人				

子育てヘルパー 「育児・家事 訪問支援事業」

事業内容

支援の必要なご家庭を訪問し、育児や家事のお手伝いをしたり、病院や学校、役所への送迎・同行をしたりします。母親の休息のために乳幼児の託児も行っています。

自主的な支援の中で、地域の床屋さんのご厚意で、支援で関わる子どもたちの散髪を無料でやっていただけています。

事業報告

託児については、主にひだまりキッズで行っています。単発や母子でのひだまりキッズ利用が訪問支援事業の託児実績になっています。2025年と比較すると、母子利用の託児と、掃除や食事届けで家事支援が増え、約140件もの実績が増加しています。同行支援については、保健師や相談員の同行により、私たちの同行は減っています。支援の中心は、送迎支援となっています。

<委託事業内訳>

・託児 113件
 ・家事支援 79件
 ・同行支援 14件
 ・送迎支援 212件
 合計……423件

<自主事業内訳>

・託児 3件
 ・家事支援 24件
 ・同行支援 1件
 ・送迎支援 28件
 ・居場所 6件
 ・散髪支援 13件
 ・その他支援 6件
 合計……81件



実施日時	ニーズに応じ随時	従事者数	7人	事業費の金額	1,745,931
実施場所	Your Place ひだまり、高德ひだまり、ひだまりキッズ、ニーズに応じ市内各所				
受益者数	日光市内の親子 延べ人(件)				

支援が必要な乳幼児の認可外保育施設「ひだまりキッズ」

事業内容

育児疲れや、育児不安等で子どもの養育がままならないケース等、支援が必要な乳幼児を、保育園入園までの間一時的に預かり保育しています。

スキンシップや声掛け、気持ちの受け止めを大切に、母親のように、おばあちゃんのように関わります。また、居場所を求める母親も多いことから、母子の利用を可能な限り受け入れ、母親のレスパイトのため、沐浴など育児全般をスタッフが代行し、別のスタッフが母親の話をひたすら聴くなどしています。

・平日 9 時～17 時開所（土日祝日は休み）

事業報告

これまで通り、母子利用の母親を受け入れ母親の話を聴き受け止めました。また、子どもたちが安心して過ごせるよう、スキンシップやたくさんの笑顔を向けることを心掛けました。

母子の受け入れ（実績は育児支援に記載）が増えています。精神疾患の母親と子、母子の愛着関係が不安定な子の対応を行ったことが印象に残っています。

年度当初頻繁に利用していた子が幼稚園につながり、利用の無い期間が数か月生まれ、利用実績が激減しています。ですが、その間も育児支援家庭訪問事業の臨時の託児を受けるなどしながら、一定の開所を続けました。

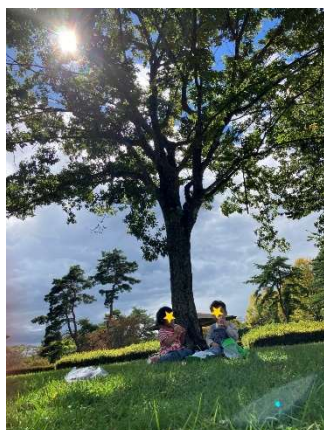
・開所日数：229 日

・利用者数：乳幼児 8 人 延べ 109 人 0.5 人/日利用

・職員 12 人、ボランティア 2 人 が延べ 493 人従事 2.2 人/日従事

ひだまりキッズ月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ開所	20	19	21	22	16	17	22	16	20	18	18	20	229
キッズ利用	13	12	0	3	0	0	4	8	16	19	19	15	109



実施日時	平日週 5 日	従事者数	12 人+ボラ 2 人	事業費の金額	8,590,412
実施場所	ひだまりキッズ、近隣の公園等				
受益者数	日光市在住の乳幼児 8 人 延べ 112 人(件)とその母親人 延べ人(件)				

～地域にあるもう一つの家～ 子どもの居場所「ひだまり」 Your Placeひだまり / 高德ひだまり / 子どもの居場所キリフリ

事業内容

家庭支援に入れないうちを、家に入れないうちなら連れ出そう!と発想し、つくりました。

家で安心して過ごせない子を、放課後学校や家にお迎えに行き居場所に連れてきます。居場所では、皆で遊び、食卓を囲み、必要に応じて入浴や洗濯もして、あとは寝るだけにして家に送ります。子どもにとって、「もう一つの家」、「おばあちゃんち」のように、優しく受け止めてもらえる、安心して過ごせる居場所であることを何より優先しています。ひだまりでは、日常生活支援だけではなく、長期休みや休日のイベント開催、外遊びへの連れ出し等、不足しがちな体験を補う事業も行っています。

栃木県が、ひだまりをモデルに、子どもの居場所づくりを市町に呼びかけ、宇都宮市や小山市等に計15か所(私たちの4か所を含む)の子どもの居場所が立ち上がっています。

事業報告

個別利用・対応を減らし、Your Place・高德とも集団での生活・遊びの場としてから2年目となります。集団の中で、兄弟間、子ども同士のぶつかりも生まれ、職員の関わり方が問われた1年でした。一般社団法人 Roots4(児童福祉等専門家派遣団体、那須塩原市)の協力を得て、定期的に職員研修を行い、子ども対応スキルの向上を図っています。

2024年度から、ケース家庭の保護者同士がつながる心配から実施を避けてきた、保護者と子が一緒に参加するイベントの実施にも踏み出しています。結果的に、保護者同士がつながって問題になることはなく、子どもと保護者それぞれの違った一面が見られたり、保護者が同伴することで、イベントでの大人の目が増えるなど、運営にプラスの面が目立っています。そのため、今年度も「親子食堂」と題して、親子で食事や遊びを楽しめるイベントを2回実施しています。

Your Place ひだまり 月別の利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	18	20	21	19	17	22	24	22	23	20	22	24	252
延利用者数	50	56	52	49	30	78	107	91	82	41	33	41	710

高德ひだまり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	17	17	20	20	15	17	17	10	13	12	17	16	191
延利用者数	26	30	31	27	22	24	25	11	29	20	18	26	289

子どもの居場所キリフリ(あそびのにわの実績の内、要支援児童数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	16	19	19	18	13	18	18	18	20	17	18	21	215
延利用者数	47	37	47	54	34	49	46	27	41	42	44	56	524
3か所計	117	119	120	126	82	151	178	129	152	103	95	123	1,495

子どもたちの様子



<Your Place ひだまり>

- ・252 日開所 延べ 710 人利用 2.8 人/日利用
- ・職員 23 人が延べ 514 人従事 2.0 人/日従事
- ・ボランティア 8 人が延べ 137 人従事

<高德ひだまり>

- ・191 日開所 延べ 289 人利用 1.5 人/日利用
- ・職員 22 人が延べ 449 人従事 2.4 人/日従事
- ・ボランティア 2 人が延べ 3 人従事

<子どもの居場所キリフリ>

- ・215 日開所 延べ 524 人利用 2.4 人/日利用
 - ・職員 13 人が延べ 843 人従事 3.9 人/日従事
 - ・ボランティア 9 人が延べ 27 人従事
- ※職員はあそびのにわと兼任しています。

<ひだまりの主なイベント>

- ・4/29 親子食堂 中央公民館にて
親子で遊んだり、飲食を楽しむ
- ・8/7 親子食堂 日光市生きがいセンターにて
- ・夏休み 曜日ごとにプールや川遊び、魚釣り
- ・12/ ひだまりクリスマス 神戸クックにて
曜日ごとにビュッフェでお食事会
(MDRT 助成事業)
- ・春休み 曜日ごとに遊園地やテーマパーク等

実施日時	平日+随時土日祝	従事者数	職員 21 人/ボランティア 16 人
事業費の金額	Your Place:7,619,690 高德:8,791,039 キリフリ:3,647,103		
実施場所	Your Place ひだまり、高德ひだまり、子どもの居場所キリフリ、市内各所		
受益者数	日光市内在住の支援が必要な子ども 28 人/延べ 1,495 人(件)		

⑤子どもが健全に育つ環境づくりを支援する事業 子どもが健全に成長できるセーフティネットをつくる

子ども第三の居場所「あそびのにわ」
(日本財団助成事業)



事業内容

子ども第三の居場所は、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、社会性、生活習慣、学習習慣など、自立に向けて生き抜く力を育むための居場所です。

「放課後の時間を遊びで満たす」をスローガンに、川や山などに毎日のように出かけていき、暗くなるまで自然の中で遊びなどの体験活動を提供しています。毎日手作りの夕食を提供する他、必要な子には入浴や洗濯の支援も行っています。

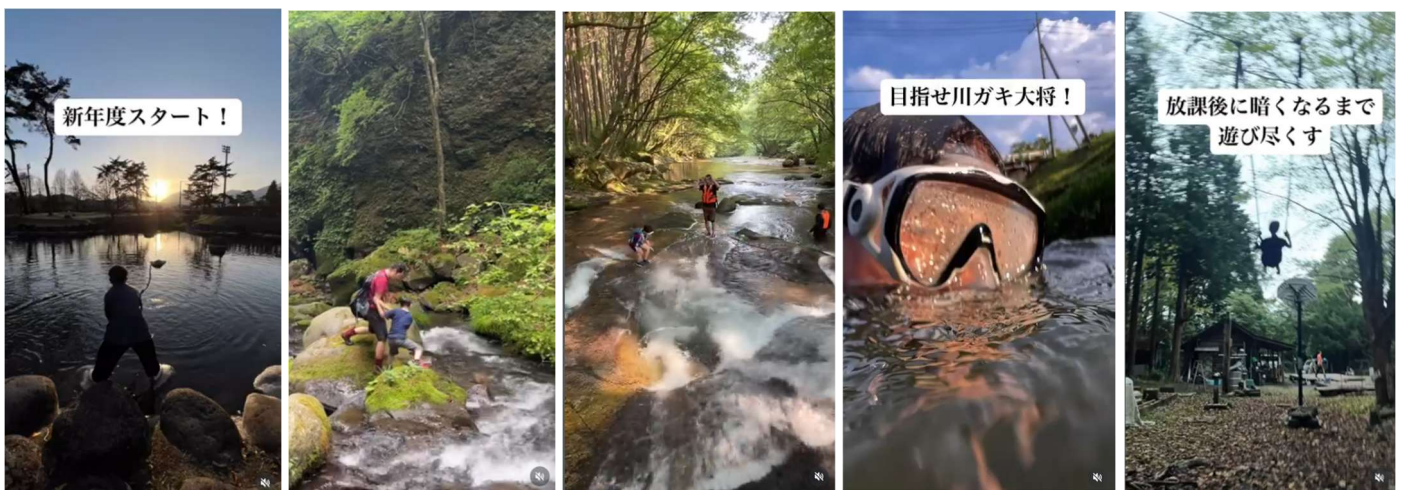
事業報告

川遊びや公園での外遊び、野っ原での火遊びなど、子どもたちが主体となって遊べる時間を提供しました。継続して利用することで、「できることが増える」実感を得て、子どもたち自身が自信を付けてきました。その結果、「今日は〇〇をやる!」と決めて利用する子が増えてきました。利用へのモチベーションが、日々の生活にもいい影響を与えているように思います。

今年度で助成期間が終了します。行政移管に向けて、運営の在り方、人員の配置、等準備を進めてきました。

あそびのにわ月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	19	20	21	21	13	20	22	18	20	17	18	21	230
延利用者数	95	98	102	106	67	93	102	60	78	89	81	100	1071



実施日時	月～金曜日、他 230日開所	従事者数	職員13人 ボランティア9人	事業費の金額	15,067,405
実施場所	子どもの居場所キリフリ内交流スペース、霧降高原のフィールド				
受益者数	日光市内在住の子ども27人 延べ1071人利用				

生活困窮者自立支援法に基づく子どもの学習支援事業(日光市委託) 高校生の中退防止事業「のんびりカフェ」・社会的な居場所づくり事業

事業内容

<高校生の中退防止事業「のんびりカフェ」>

日光市在住及び日光市の高校に通う高校生&高校生世代の若者を対象としています。

高校中退を防止し、高校卒業&就労等、社会的自立を目指す事業です。土曜日開催の居場所「のんびりカフェ」と、カフェ等で培った人間関係をもとに相談対応や食材提供等を行う訪問支援を行っています。カフェでは、スマホゲームをしたり、ボードゲームをしたり、卓球をしたりと、好きなことをして過ごします。希望に応じ、学校のことや人間関係、仕事、生活等の相談に乗っています。

<社会的な居場所づくり事業> ※子どもの居場所事業の実績に含まれています。

事業報告

子どもの居場所ひだまりを卒業した高校生、高校を卒業した若者が利用の中心になっています。第2、4土曜日は中学生も参加OKの日としています。

<イベント> 花見/クリスマス会/サンタ de ラン/ミニ四駆大会、LIVE 観賞、等

高校卒業後、進学したり、就職したりして本来カフェを卒業するはずの子の利用が増え、カフェのあり方を再検討し、13時~中高生、15時~卒業生と二部制にて運営しました。

高校生はバイト等で参加できない子も多く、通常の利用は減っています。イベントを実施すると、それを楽しみに多くの子が参加してくれています。

実施日時	第1~4土曜、他	従事者数	職員4人	事業費の金額	3,574,872
実施場所	Your Place ひだまり、利用者宅等				
受益者数	日光市内在住の高校生等31人 カフェ:延べ161人 訪問支援等:延べ88人(件)				

母子の自立に向けた「ステップハウス」

事業内容

離婚や生活困窮、退職で寮を出されたりして行き場を失った母子に、3か月を目安に無料で住まいを提供しています。利用中に、APの敷礼金等自立に向け必要な資金を貯めていただきます。

事業報告 ※1件の利用がありましたが、諸事情により情報開示を控えます。

実施日時	※非開示	従事者数	※非開示	事業費の金額	0
実施場所	※非開示				
受益者数	※非開示				

その他の動き

事業内容	実施内容
① 総会、理事会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 5月29日 第20回通常総会 ・理事会 5月21日 第1回理事会(総会議案) 11月19日 第2回理事会(上半期の報告、下半期の計画、他) 2月4日 第3回理事会(あそびのにわ土地建物購入について)
② 通信の発行	<ul style="list-style-type: none"> ・6月20日「だいじょうぶ通信47号」ひだまり・キッズ・食材配布会、親子食堂 ・9月30日「だいじょうぶ通信48号」親子食堂、あそびのにわ、ひだまり、他 ・2月10日「だいじょうぶ通信49号」ひだまり・キッズ、サンタ de ラン、他
③ 講演会、研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・4月7日/1月6日 職員全体研修 ・4月11~17日 MY TREE 子育てプログラム研修 ・4月24日 日本財団 子どもの権利セーフガーディング研修 ・5月17日 MY TREE 瞑想研修 ・6月12日 MY TREE 総会&研修 ・6月21日、9月11日、12月18日、3月5日 職員研修(Roots4) ・7月15日 子どもの居場所担い手育成事業研修 「児童福祉、児童虐待に関する動向について」 ・10月8日、2月27日 FCP フォローアップセミナー ・11月6日 子どもの居場所担い手育成事業研修「事例検討会」 ・11月7日 児童虐待防止セミナー「子どもの特性の理解と支援について」 ・11月15・16日 JaSPCAN 日本子ども虐待防止学会 全国学術集会(札幌) ・11月30日 子どもの虐待をなくそう県民の集い 「児童虐待防止と子どもの育ち、パーマネンシーを考える」 ・3月5日 MY TREE トレーナーミーティング
④ 他団体との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・2月20日
⑤ 講座等実施	※内部向け研修のみ
⑥ 講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・4月27日 鹿沼ロータリークラブ例会 ・5月23・30日/6月10日/7月1・8・18日 子育て応援セミナー ・6月27日 栃木県幼稚園連合会 設置者・園長研修会 ・7月7~8日 日光明峰高校 日光学研修&フィールドワーク ・8月23日 日光市幼稚園教職員全体研修 ・9月16日 子どもの居場所担い手育成事業研修 ・11月20日 家庭児童相談員研修 ・2月5日 栃木県中央地区里親研修 ・2月10日 緊急一時支援全国実践研究フォーラム……他、全18件
⑦ 見学受入	<ul style="list-style-type: none"> ・4月22日 一般社団法人あんど ・6月17日 日本財団 3名 ・7月22日 東那須野地区民生委員協議会 ・8月1日 立教大学 13名 ・1月22日 宇都宮共和大学 14名 ・3月31日 一般社団法人えんがお 12名……他、全14件
⑧ 資金集め	<ul style="list-style-type: none"> ・12月14日 子どもの貧困撃退♡チャリティー サンタ de ラン&クリーン参画

